

2019 年卒
Vol.07

6 月 1 日時点の就職活動調査

キャリアス就活 2019 学生モニター調査結果 (2018 年 6 月発行)

2019 年卒業予定者の採用面接が今月 1 日に正式に解禁され、就職活動が山場を迎えている。
6 月 1 日現在のキャリアス就活・学生モニターの就職活動状況について調査を行ったところ、
内定率は前年に引き続き、6 割を超える高水準をマークしていたことがわかった。

1. 6 月 1 日現在の内定状況

- 内定率は 65.7%。前年同期実績 (63.4%) を 2.3 ポイント上回る
- 就職活動終了者は全体の 35.2%。前年 (28.8%) より 6.4 ポイント上昇。継続者は 64.9%

2. 内定を得た企業の属性

- 「情報処理・ソフトウェア」が依然最多。2 位は「建設・住宅・不動産」
- 内定企業の従業員規模は、1,000 人以上の大手企業が過半数 (57.5%) を占める

3. 未内定者が内定を得る見通し

- 未内定者のうち 7 割 (72.3%) が「内定の見通しが立っていない」
- 「就職以外の道 (進学、留年など) を考えている」が 1 割を超える

4. エントリー社数とセミナー参加社数

- 一人あたりのエントリー社数の平均は 30.0 社。前年同期調査 (37.5 社) の 8 割の水準
- 企業単独セミナーへの参加社数は 13.0 社。前年 (15.3 社) を下回る

5. 選考試験の受験状況

- エントリーシートの提出社数は 12.9 社。前年 (15.4 社) をやや下回る
- 選考試験の平均受験社数は、筆記 9.2 社、面接 7.0 社。いずれも前年同期より減少
- 6 月 1 日に「一次面接」に呼ばれたのは 28.7%。17 卒 (42.3%) から 2 年連続減少

6. 就職活動継続学生の今後の動向

- 選考中の企業は平均 3.3 社。受験予定を合わせた持ち駒企業は 5.4 社。
- 今後のエントリー予定社数は 2.3 社。新たな企業を探す手段は「就職情報サイト」89.1%

7. インターンシップ参加企業の本選考への応募と内定

- インターン参加企業の本選考への応募は 80.3%。応募者の過半数 (50.1%) が内定獲得
- 本選考への応募理由「早期選考だった」が増加 (34.2%→39.6%)

8. 内定企業への就職決定に必要なフォロー

- 「食事会などの懇親会」「現場社員との面談」「人事担当者との面談」の順

調査概要

調査対象 : 2019 年 3 月に卒業予定の大学 4 年生 (理系は大学院修士課程 2 年生含む)
回答者数 : 1,145 人 (文系男子 339 人、文系女子 352 人、理系男子 296 人、理系女子 158 人)
調査方法 : インターネット調査法
調査期間 : 2018 年 6 月 1 日~5 日
サンプリング : キャリタス就活 2019 学生モニター (2016 年卒以前は「日経就職ナビ・就職活動モニター」)

◆本資料に関するお問い合わせ先 : 03-4316-5505 / 株式会社ディスコ キャリタスリサーチ

1. 6月1日現在の内定状況

6月1日現在の学生モニターの内定率は65.7%。先月調査(5月1日現在)の42.2%から1カ月で23.5ポイント上昇し、2年連続で6割を超える高水準となった。ただ、5月調査では前年同期を4.7ポイント上回り内定出しの早期化が目立っていたが、ここにきて前年との差は縮まった(2.3ポイント差)。

内定率は文系より理系で高く、男女とも7割を超えている(70.3%)。

内定取得学生のうち就職先を決めて就職活動を終了したのは47.7%。前年同期(40.2%)を7.5ポイント近く上回り、就職先決定のタイミングが早まっていることがわかる。内定者のうち就職活動を継続しているのは46.5%。

6月1日現在の内定状況

*「内定」には、内々定を含む

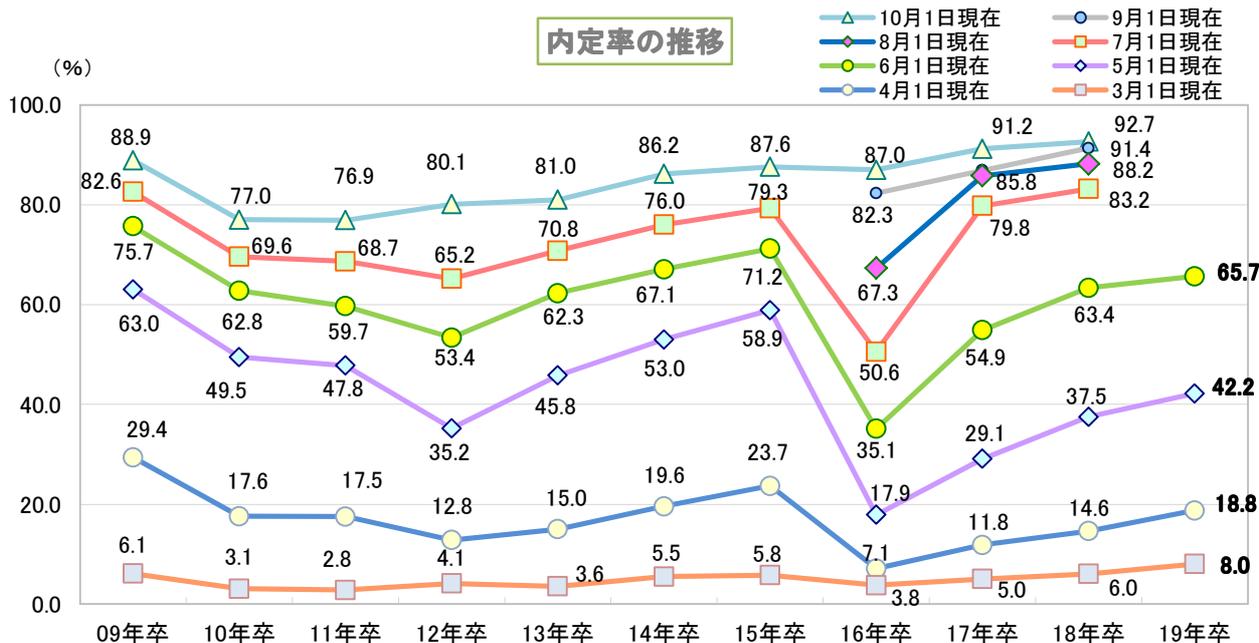
(%)

	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子	
内定あり	65.7 (63.4)	64.0 (55.8)	61.4 (62.9)	70.3 (68.9)	70.3 (73.0)	
内定なし	34.3 (36.6)	36.0 (44.2)	38.6 (37.1)	29.7 (31.1)	29.7 (27.0)	
内定者のうち	就職先を決定し活動終了	47.7 (40.2)	43.3 (29.8)	38.4 (30.5)	59.1 (52.7)	53.2 (55.5)
	活動は終了したが複数内定保持	4.9 (4.9)	6.0 (3.4)	4.2 (5.0)	4.3 (6.7)	5.4 (4.2)
	進学などの理由で就職活動を中止	0.8 (0.3)	0.5 (0.4)	0.5 (0.0)	1.4 (0.4)	0.9 (0.0)
	就職活動継続	46.5 (54.6)	50.2 (66.4)	56.9 (64.5)	35.1 (40.2)	40.5 (40.3)

(社)

	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定社数/平均	2.0 (1.9)	2.0 (2.0)	2.1 (1.7)	1.9 (1.9)	2.0 (2.1)

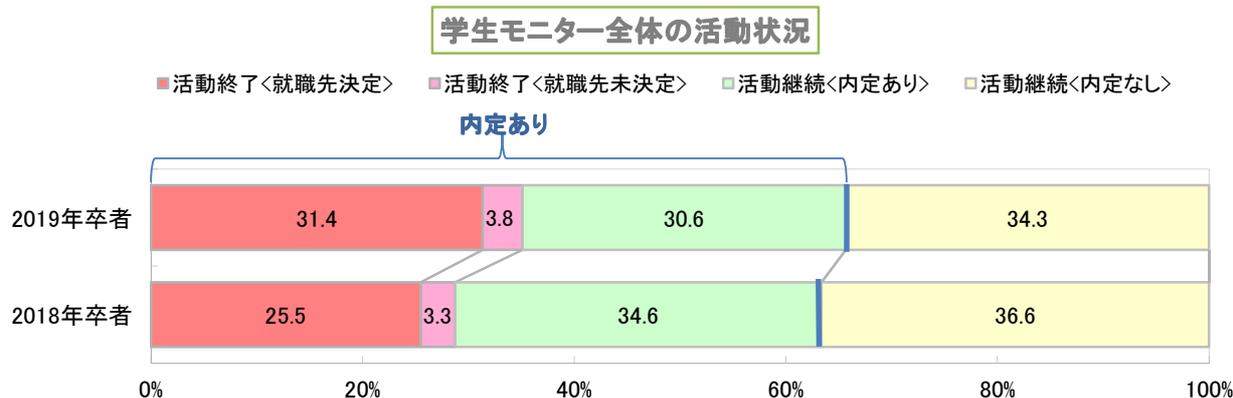
※ () 内は前年(6月1日現在)の数値



※15年卒までは選考解禁は4月、16年卒は8月、17~19卒は6月 ※15年卒以前は8月、9月のデータはなし

モニター学生全体を分母にとると、調査時点で就職先を決定して就職活動を終了した者の割合は 31.4%。複数内定を保留しているなど未決定である者 (3.8%) を合わせると、終了者は 35.2% となる。内定取得者の終了ペースが早まったことで、前年同期 (28.8%) より 6.4ポイント上昇した。その分、継続者の割合は減少し、活動継続者は「内定あり」(30.6%)、「内定なし」(34.3%) を合わせて 64.9%。

内定の有無に関わらず、多くの学生にとって6月が大きな山場であることは間違いなく、この1カ月の動きに注目したい。



2. 内定を得た企業の属性

6月1日現在で内定を得ている学生に内定企業の業界を尋ね、上位業界をまとめた。(全40業界)

5月調査に引き続き「情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト」が最も多く、27.8%と依然内定が集中している。文理男女すべての属性で1位であり、文系男子以外は約3割に及んでいる。

2位は「建設・住宅・不動産」(16.6%)で、理系女子以外の属性で2位と幅広い層が内定を得ている。3位「調査・コンサルタント」(10.6%)、4位「電子・電機」(10.4%)と続く。

採用意欲が高く、内定出しの早い業界が上位にランクされたが、6月の山場を越えた後の7月調査では順位が大きく変動する可能性がある。

内定を得た業界 (上位 10 業界)

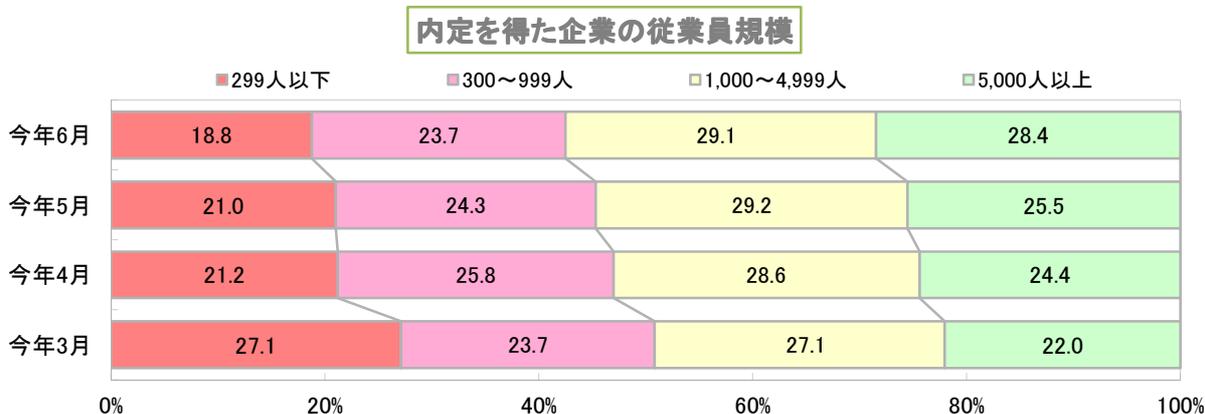
※6つまで選択 (%)

	全 体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
1	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト ① 27.8	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 18.4	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 31.9	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 32.2	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 29.7
2	建設・住宅・不動産 ② 16.6	建設・住宅・不動産 17.1	建設・住宅・不動産 12.5	建設・住宅・不動産 21.2	医薬品・医療関連・化粧品 27.9
3	調査・コンサルタント ④ 10.6	運輸・倉庫 13.8	保険 11.6	電子・電機 16.8	水産・食品 18.0
4	電子・電機 ⑤ 10.4	調査・コンサルタント 12.9	その他サービス 10.6	自動車・輸送用機器 12.0	電子・電機 18.0
5	運輸・倉庫 ⑨ 8.6	情報・インターネットサービス 10.1	専門店 10.6	調査・コンサルタント 11.5	建設・住宅・不動産 15.3
6	情報・インターネットサービス ⑦ 8.2	コンビニエンス・GMSストア 9.7	人材紹介・人材派遣 9.3	機械・プラントエンジニアリング 10.1	素材・化学 12.6
7	人材紹介・人材派遣 7.2	銀行 9.2	ホテル・旅行 8.8	情報・インターネットサービス 9.6	調査・コンサルタント 11.7
8	機械・プラントエンジニアリング 7.0	商社(専門) 9.2	マスコミ 8.8	運輸・倉庫 9.1	機械・プラントエンジニアリング 10.8
9	医薬品・医療関連・化粧品 ③ 6.9	電子・電機 8.3	銀行 8.8	人材紹介・人材派遣 7.2	その他サービス 7.2
	その他サービス 6.9	人材紹介・人材派遣 7.4	情報・インターネットサービス 8.3	その他サービス 6.3	専門店 5.4

※○の中の数字は前年調査の順位

※「その他サービス」=セキュリティサービス、介護・福祉サービス、冠婚葬祭などのサービス業

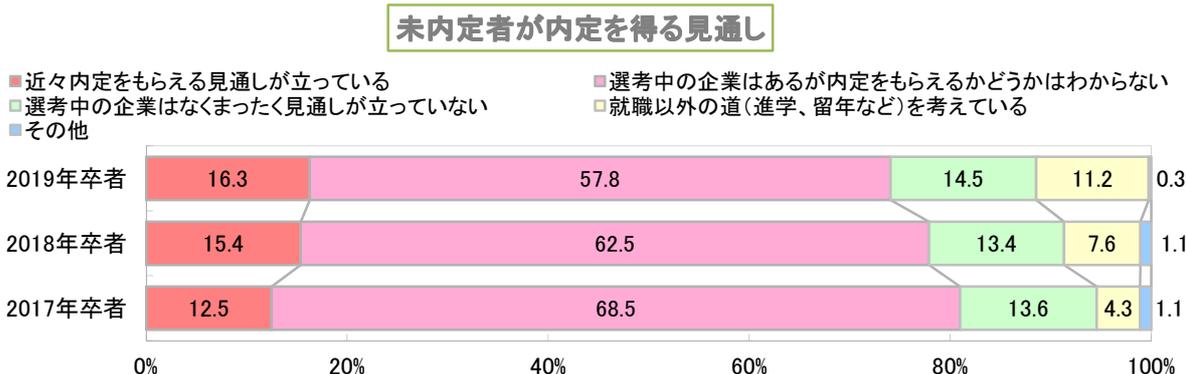
内定を得た企業の従業員規模について、この4カ月の推移を見てみよう。月を追うごとに大手企業の占める割合が高まっているのが見て取れる。3月時点で「5,000人以上」の占める割合は22.0%だったが、この6月調査では28.4%へと割合が増した。「1,000~4,999人」を合わせると57.5%となり、6割近くが大手からの内定ということになる。採用数の多い大手企業の内定出しが本格化したことで、割合が増したのだろう。



※複数の企業から内定を得た学生がいるため、100%換算し、算出した

3. 未内定者が内定を得る見通し

内定を得ていない学生に内定獲得の見通しを尋ねた。「近々内定をもらえる見通しが立っている」が16.3%で、前年(15.4%)を0.9ポイント上回る。ただ、最も多いのは「選考中の企業はあるが、内定をもらえるかわからない」(57.8%)で、ここに「選考中の企業はなく、まったく見通しが立っていない」(14.5%)を足し合わせると72.3%になり、未内定者の7割強が先の見えない状況にあるようだ。一方、「就職以外の道(進学、留年など)を考えている」という回答が1割を超え(11.2%)、選考解禁直後にもかかわらず、早くも来春の就職を見送ろうという学生が一定数いることがわかる。



※各年6月調査

■未内定学生の声

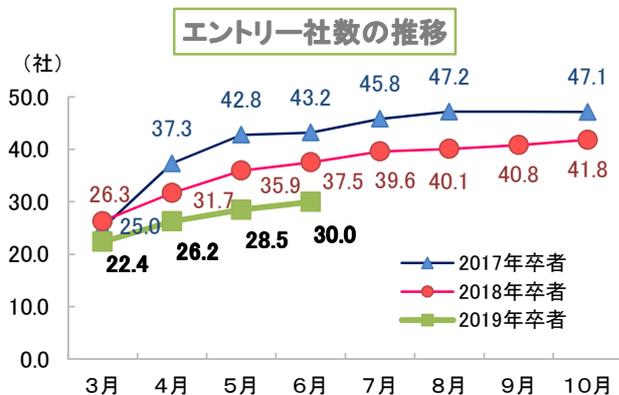
- 売り手市場と言うが、志望する企業に入れるかは全くの別問題だと体感している。 <文系男子>
- 短い期間で自分が本当にどの職業につきたいのか、何をしたいのかを見極めるのが難しい。 <理系男子>
- 内定をもらえる気がしない。第一志望の選考で志望動機をうまく伝えきれず悔しい気持ちでいっぱい。やり直したい。 <理系女子>
- 失敗続きで、面接に行くのが怖くなってくる。もうこのまま、非正規雇用でもいいかなと思ってしまう。 <文系女子>

4. エントリー社数とセミナー参加社数

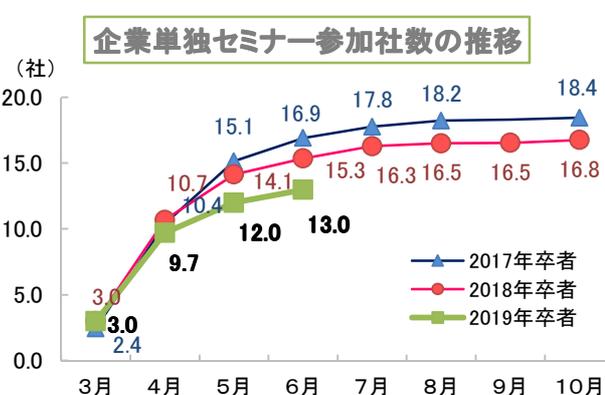
6月1日時点での就職活動量について確認してみよう。一人あたりのエントリー社数の平均は30.0社で、前年同期の8割の水準にとどまる。3月調査(22.4社)からの伸びは7.6社とかなり鈍く、早い段階で企業を絞り込み、新たな企業へと関心を広げることが少ないまま就職活動を進める学生が多かったことが推測できる。企業単独セミナーへの参加社数も前年実績を割り込んでおり、平均13.0社。

エントリー社数とセミナー参加社数

	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
エントリー社数	30.0	32.4	35.3	21.9	27.7
セミナー・説明会参加社数	31.3	33.9	35.8	26.1	25.6
企業単独開催のもの	13.0	15.2	15.0	9.2	10.8
合同開催のもの	10.7	11.2	12.4	9.3	8.1
学内開催のもの	7.7	7.5	8.4	7.7	6.6



※2017年卒者は9月調査なし



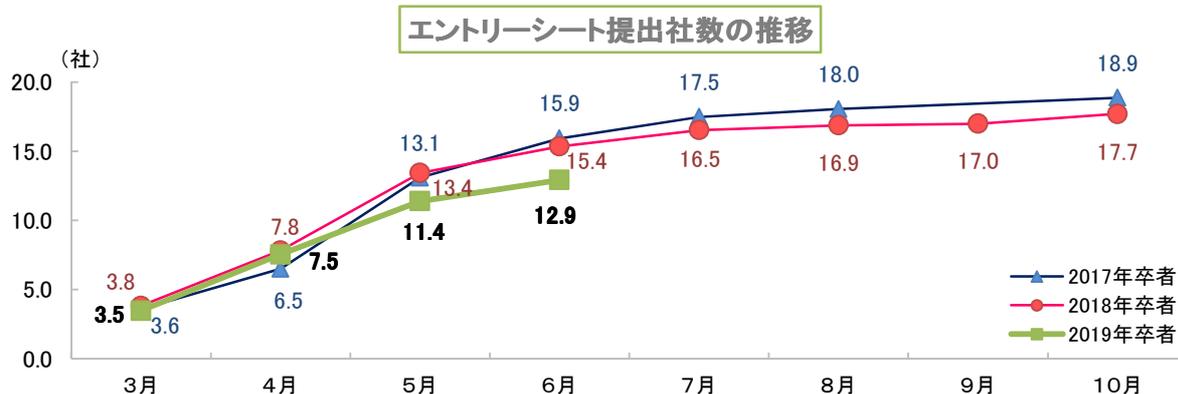
※2017年卒者は9月調査なし

5. 選考試験の受験状況

選考試験についても社数を確認してみる。エントリーシート(ES)の提出社数の平均は12.9社。先月(5月)からの増加は1.5社で、前年同期(15.4社)を2.5社下回った。エントリー同様、企業を絞り込んで受ける傾向が読み取れる。

エントリーシート提出社数

	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
エントリーシート提出社数	12.9	14.6	13.6	10.3	12.7

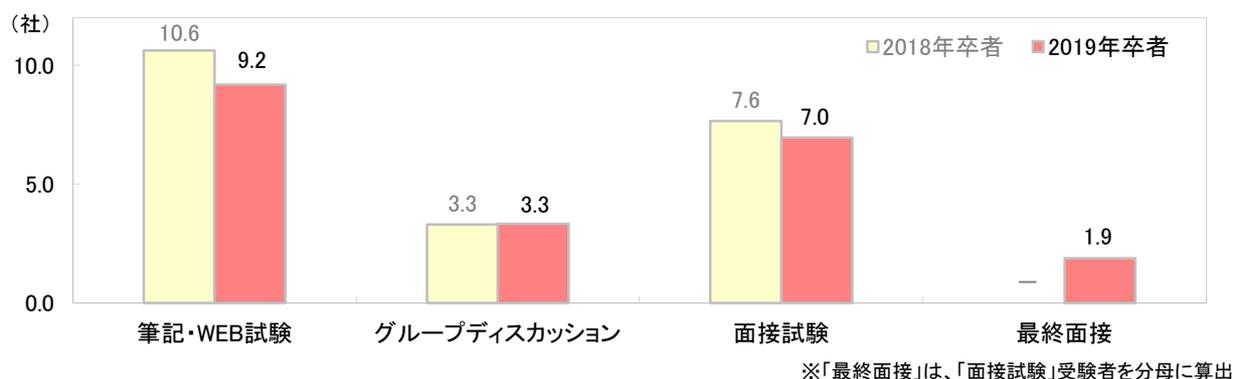


※2017年卒者は9月調査なし

筆記試験、面接試験の社数も、前年同期を下回った。筆記試験は平均9.2社で、面接試験は同7.0社。なお、グラフの「最終面接」の社数(1.9社)は、面接試験を受けた者を分母に算出したものであり、面接試験7.0社を受け、最終面接に進んだのが1.9社という計算となる。

選考試験受験社数

	(社)				
	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
筆記・WEB試験	9.2	10.9	9.4	7.5	8.2
グループディスカッション	3.3	3.9	3.2	2.9	2.9
面接試験	7.0	8.0	7.2	5.7	6.3
最終面接	1.9	1.9	1.8	1.9	1.9



選考解禁当日(6月1日)の呼び出し状況を調べたところ、企業から何らかの呼び出しを受けた学生が過半数だったことがわかった(「呼び出しなし」45.9%を除いた54.1%)。呼び出しの内容を複数回答で尋ねると、最も多かったのは「一次面接」(28.7%)だが、6月1日が選考解禁に変わった初年度の17卒者(42.3%)に比べ10ポイント以上減少した。代わりに「内定企業からの呼び出し」が増加傾向にあり、この2年間で選考解禁日の重みが薄らいでいる様子が見て取れる。

選考解禁日(6月1日)の企業からの呼び出し状況



6. 就職活動継続学生の今後の動向

内定保持者も含め、就職活動を継続している学生（モニター全体の 64.9%）の、現在選考中の企業数は平均 3.3 社。これから受験予定の企業数（2.1 社）をあわせると、いわゆる持ち駒企業は 5.4 社。

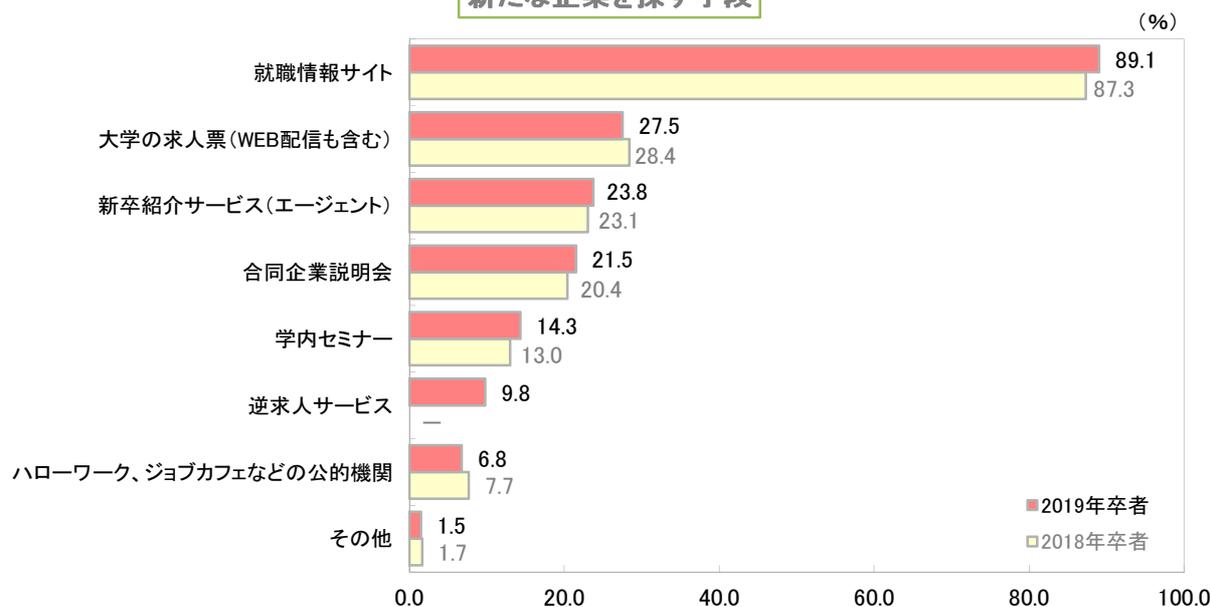
今後のエントリー予定社数は内定の有無で差が大きく、「内定あり」の学生は 1.3 社だが、「内定なし」の学生はその 2 倍以上の 3.2 社。

今後のエントリー予定社数を 1 社以上と回答した学生に、新たな企業を探す手段（ツール）を尋ねると、「就職情報サイト」が 9 割近く（89.1%）で圧倒的に高く、序盤から長く企業探しのメインツールとして利用されていることがわかる。

持ち駒企業数

	全体	内定あり	内定なし	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
現在選考中の企業数	3.3	3.3	3.4	3.7	3.7	2.6	2.5
これから受験予定の企業数	2.1	1.7	2.5	2.7	2.2	1.8	1.4
今後のエントリー予定社数	2.3	1.3	3.2	2.8	2.4	1.7	1.5
今後の企業単独セミナー参加予定社数	1.7	1.1	2.2	2.0	1.9	1.0	1.2

新たな企業を探す手段



※「逆求人サービス」は前年調査なし

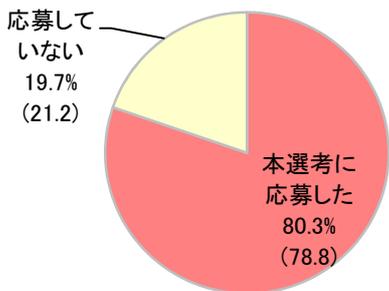
	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
就職情報サイト	89.1	89.4	91.7	82.9	86.7
大学の求人票 (WEB配信も含む)	27.5	22.4	28.4	34.1	30.0
新卒紹介サービス (エージェント)	23.8	21.2	22.0	34.1	23.3
合同企業説明会	21.5	27.1	19.3	17.1	20.0
学内セミナー	14.3	16.5	12.8	19.5	6.7
逆求人サービス	9.8	8.2	11.0	12.2	6.7
ハローワーク、ジョブカフェなどの公的機関	6.8	7.1	9.2	0.0	6.7
その他	1.5	2.4	0.9	2.4	0.0

7. インターンシップ参加企業の本選考への応募と内定

早期に学生にアプローチする手段としてインターンシップを実施する企業は年々増加しているが、実際にインターンシップ参加企業に応募した学生はどの程度いるだろうか。インターンシップ参加経験のある学生に尋ねたところ、「本選考に応募した」との回答は、前年調査 (78.8%) を上回り 8 割を超えた (80.3%)。調査時点のインターン平均参加社数は 6.5 社で、本選考応募社数は平均 3.7 社。高い割合で応募していると言える。本選考応募者のうち実際に内定をもらった経験を持つ学生の割合は 50.1%と半数超。前年調査より 5.7 ポイント増加しており、インターンシップ参加企業から内定を得る学生が増えていることがわかる。

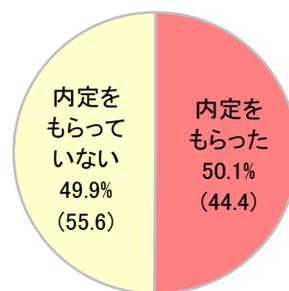
本選考に応募した理由を尋ねると、「インターンシップを通じて志望度が高まった」が最も多く約 6 割 (59.1%)。「インターンシップ参加学生の優先ルートがあった」(43.0%) がこれに続く。「早期選考だった」(39.6%) が前年より 5.4 ポイント増えており、インターン参加学生の本選考を早い時期から進める企業が増えたようだ。

インターン参加企業の本選考への応募



* インターンシップ参加経験者が回答

インターン参加企業からの内定

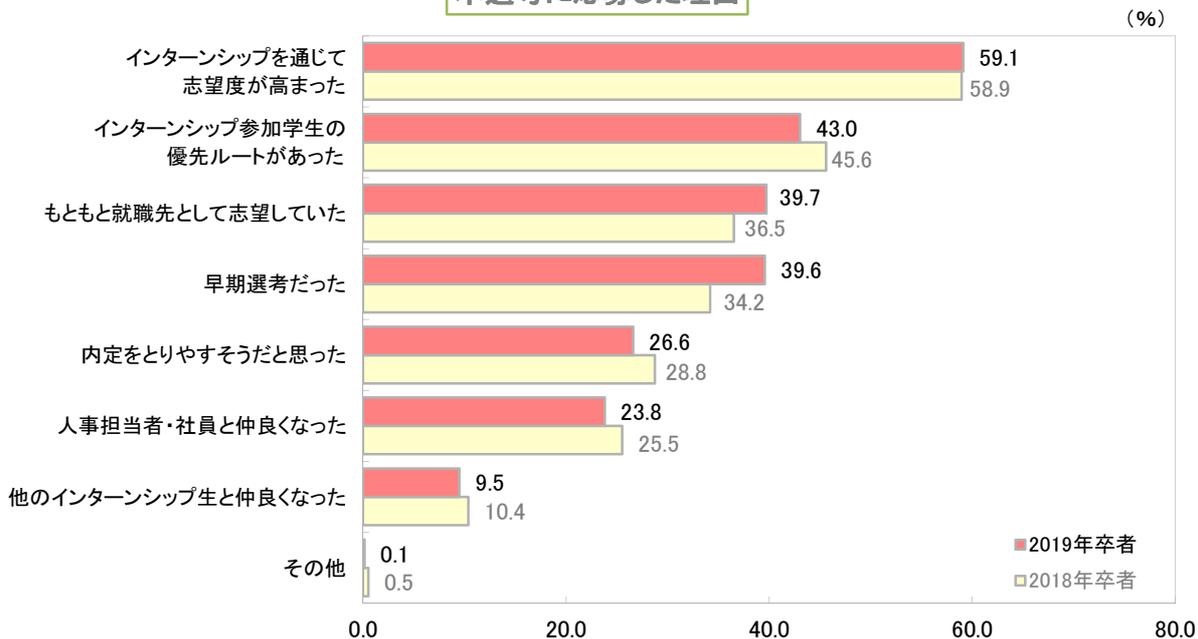


* インターンシップ参加企業の本選考応募者が回答

	インターン参加社数	うちプレエントリー社数	うち本選考応募社数	うち内定社数
2019年卒者	6.5社	4.8社	3.7社	1.5社
2018年卒者	5.1社	4.0社	3.3社	1.5社

※それぞれ、経験者を分母に平均社数を算出

本選考に応募した理由

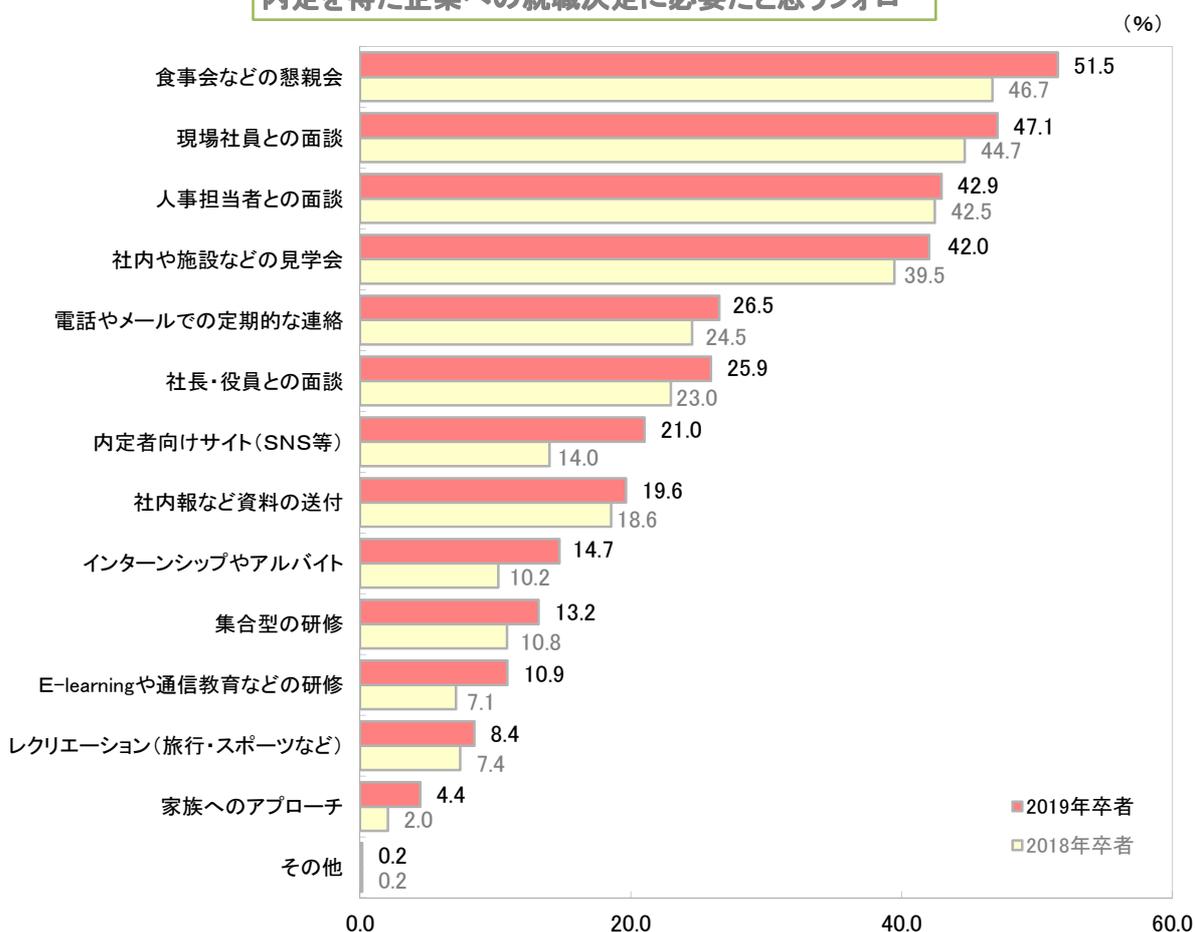


8. 内定企業への就職決定に必要なフォロー

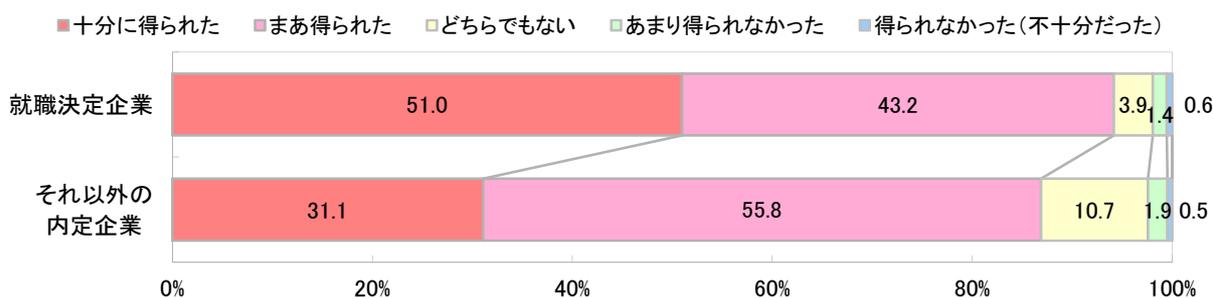
内定を得た企業に就職するかどうかを決めるために必要だと思うフォローについて尋ねたところ、「フォローは必要ない」との回答は 13.3%にとどまり、就職先決定のために何かしらのフォローを必要としている学生が大半を占めた。

具体的な内容として最も多いのは「食事会などの懇親会」で過半数 (51.5%)。「現場社員との面談」(47.1%)、「人事担当者との面談」(42.9%)、「社内や施設などの見学会」(42.0%) までが 4 割を超える。分散傾向が見られ、学生によって就職決定に必要なとするフォローは一様ではないことがわかる。全体的に前年調査よりポイントが増加しており、スピード選考や複数内定獲得により、内定後にも改めて企業研究をするための情報を必要とする学生が増えていることがうかがえる。

内定を得た企業への就職決定に必要なと思うフォロー



内定を得た企業の情報取得度



■志望度が上がった、嬉しかった内定後フォロー

- 面談等でお世話になった社員の方から直接電話が来て、おめでとうと言ってくれたこと。 <文系男子>
- 面接官満場一致で、来春より当社で働いて欲しいという旨を内々定通知と一緒に仰っていただいたこと。 <理系女子>
- 人事の方から、個人的にもあなたの合格は嬉しいと言われたこと。 <理系男子>
- 内定承諾の前に、これまでの面接でどのような点が評価されたのかと今後伸ばしていかなければならない点をフィードバックしてくれたこと。 <文系女子>
- 自分のことをしっかりと選考中に見てくださっていると感じるフィードバックをいただいた。また優先的に連絡したと聞いて嬉しくなった。 <理系女子>
- 会社説明会にちゃんと参加できていなかったため、再度簡単に業務紹介をしてもらい、志望度はかなり上がりました。無理に内定承諾を取ろうと言うより、ミスマッチを防ぐための面談であったのでとてもありがたく、好印象でした。 <文系女子>
- 内定後の返事に関して、他社の選考が終わるまで待ってくれたこと。率直な相談にも親身かつ柔軟に対応してくれ、結果的に志望度が上がってその会社への就職を決めました。 <理系女子>
- 不安を伝えたときにすぐに OB 訪問をさせてもらえたこと。 <文系男子>
- 内定者相談会のようなものに自由参加できて、そこで先輩社員から企業の福利厚生や職場の環境や雰囲気を知ることができたので、それらの不安要素をなくすことができたのが嬉しかったです。 <文系男子>
- 内定者懇親会を 5 月中旬、6 月 1 日と 2 回開催してくれた。若手の社員さんから社長さんまで、幅広い層の方とお話する機会があった。 <文系女子>
- 同期と早めに顔合わせできる機会を設けてもらえたこと。 <理系男子>
- 内定者懇談会で疑問に思い、迷っていた点を明らかにすることができ就職先を決めた。 <文系女子>
- 将来の目標とするキャリアパスの先の先輩社員と面談を組んでいただいた。 <理系男子>
- 内定者懇親会で、代表とお話する機会があった。部門の魅力を伝えるメルマガが開始された。 <文系男子>
- 親に対しての理解度向上のための資料を実家に配送してもらい、親の理解度が高まった。 <理系男子>

■志望度が下がった内定後フォロー

- 内定承諾の期限が 1 週間しか貰えなかったこと。 <理系男子>
- 内定を頂いたが、もう少し就職活動を続けたいと伝えた途端、急に態度が冷たくなったこと。 <文系女子>
- 残っている企業について、何度も電話で面接日程など細かく聞かれること。 <文系女子>
- 他に内定していた企業の悪口を、志望度が高かった企業から言われたときに、ここはやめておこうと志望度が下がりました。 <文系女子>
- 内々定が出た時点で就職活動を終了し、入社を決める旨を述べたが、その後 2 回ほど本当に内々定を承諾する気があるかどうか確認する電話が来た。 <理系男子>
- 後付け推薦の提出を急かされたこと。一気に志望度が下がった。 <理系女子>
- 若手社員との面談。面談 15 分のためだけに遠方から東京へ呼び出されたことが面倒だった。 <文系男子>
- 内定をもらうまで会ったことのなかったリクルーターから電話が来る。 <文系女子>
- 内々定の通知以降、なにもフォローがない。 <文系男子>
- ほとんど連絡がなく、送付された資料に不備があった。聞きたいことがあった際の電話で、とてもせわしない様子を感じた。 <文系女子>
- 内定通知書の郵送の際に「内定辞退者向けアンケート」が同封されていたこと。 <理系男子>
- 内定者 SNS のアカウントを作らされたが、活用されていない。 <文系男子>